

長岡 あーかいぶす 第 3 号

発行/長岡市立中央図書館文書資料室 <http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/monjo/index.htm>

シリーズ 災害と文書資料室 (3)

市民ボランティアとの協働

中越大震災で被災した古文書等の歴史的資料を整理する市民ボランティアが、十日町市と長岡市に誕生している。市民と行政が協働して、先人の暮らしの記録の数々を後世に伝えていこうという取り組みである。



▲古文書を通して交流を深める

11月17日(金)、両市のボランティアの交流会が、十日町情報館を会場に開催された。当日は、両市からあわせて42名のボランティアが参加。長岡市内の民家から救出され、文書資料室での一時保管を経て、所蔵者から十日町情報館へ寄贈された中魚沼郡仙田村文書の目録作成を合同で行った。

十日町市古文書整理ボランティアは、平成17年5月に結成され、現在の登録者数は約70名。参加者は延べ2千名を超える。長岡市資料整理ボランティアは、平成17年10月に活動を開始。現在75名の登録があり、参加者は延べ575名である。災いを転じる市民の力が資料の整理・保存・活用を支えている。



▲昼食会で十日町名物へぎそばを賞味しつつ歓談

今回の合同作業は、整理対象の文書群が十日町情報館の所蔵資料であるため、目録カードの記入を十日町市の方法で行った。そのため、長岡市では2回の準備会を行って交流会に臨み、表題や形態の取り方、内容注記など異なる方法に挑戦した。こうした両者の経験交流は、目録作成上の留意点や活動全般のこれからを考えるうえで大変参考になった。今後も情報交換や行事への参加などを通して、息の長い楽しい交流を行っていきたい。

最後に、長岡市からの参加者の感想をご紹介します。「古文書解読の実力者ばかりで驚きました。古文書と蕎麦と紅葉と妻有の人情と、感激の一日でした。十日町の皆さんありがとうございました。」 (田中洋史)



▲参加者全員で記念撮影

閲覧できる被災資料

※相談受付順。波線は長岡市資料整理ボランティアによって整理された資料です。

中越大震災後、土蔵や家屋の倒壊等により歴史資料の破損や廃棄処分による散逸が懸念されました。そこで、被災資料の廃棄をしないよう呼びかけをしたところ、所蔵者の理解を得ることができ、77件（平成18年11月末現在）の相談を受け付けました。これらのうち一時保管を経て所蔵者により文書資料室へ寄贈・寄託された資料があります。その中で整理が終わり公開している被災資料3,822点をご紹介します。

なお、保管場所等の都合により当日閲覧いただけない資料もありますので文書資料室までご確認ください。郷土の歴史研究への活用をお待ちしています。

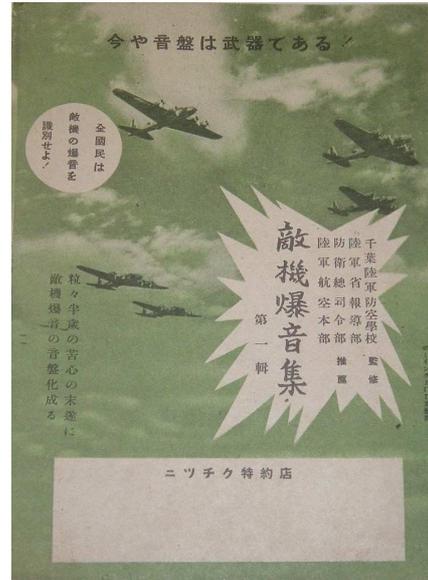


（小林良子）

- ① **小林亨氏旧蔵英語辞書**
近代、辞書、6点、小林恵子氏寄贈
- ② **吉川清氏収集資料**
現代、図書・レコード、162点、吉川幸氏寄贈
- ③ **島田家収集写真・新聞**
近代・現代、写真・新聞、4点、島田隆平氏寄贈
- ④ **樺沢正氏旧蔵図書**
現代、事典・図書、56点、同氏寄贈
- ⑤ **佐々木一祿氏旧蔵資料**
現代、長岡市行政関係資料・郷土史調査研究資料、2092点、佐々木茂氏寄贈
- ⑥ **栗林重二郎氏収集写真**
近代、山本五十六写真他、2点、同氏寄贈
- ⑦ **岩崎善一郎氏旧蔵図書**
近代、美術関係図書、13点、同氏寄贈
- ⑧ **岩井トミ子氏収集資料**
近代、関東大震災写真画報、1点、同氏寄贈
- ⑨ **『赤い鳥』復刻版**
現代、19点、平石稔氏寄贈
- ⑩ **齋川宏吉氏収集資料**
近代・現代、図書・切手・絵はがき、437点、大谷地佳代子氏寄贈

⑪ 大関誠一氏収集映画・レコード関係資料

近代・現代、映画・レコードちらし、レコード・カセットテープ、387点、同氏寄贈



▲戦時中のレコードのちらし

⑫ 今井元彦氏旧蔵図書

現代、図書、58点、今井東彦氏寄贈

⑬ 成願寺温泉養壽館資料

近代・現代、270点、高野興一氏寄贈



▲成願寺温泉の宣伝ちらし

⑭ 栖吉村室橋家文書

近代・現代、和本類・栖吉村関係資料、103点、室橋速七氏寄贈

⑮ 飯塚村廣川家文書

近代・現代、和本・図書、123点、廣川雅英氏寄贈

⑩ 新潟県産業博覧会他長岡市写真

田中尅氏が撮影した昭和 20・30 年代の長岡市写真、48 点、同氏寄贈



▲新潟県産業博覧会の正面アーチ

⑪ 新潟県産業博覧会資料

現代、5 点、岡崎照男氏寄贈

⑫ 横沢村山崎家旧蔵国書

「漂客記聞」他、12 点、山崎巖氏寄贈

⑬ 大正・昭和戦前期教科書

近代・現代、20 点、大橋済氏寄贈

⑭ 柳原町堀井家文書

近世・近代、柳原町刀鍛冶甚助褒状他、4 点、堀井成子氏寄贈



▲覚（柳原町刀鍛冶甚助褒状）

《新たに公開した所蔵資料一覧》 ※寄贈・購入年月日順

- ・長倉村文書（近世・近代、144 点、購入）
- ・関原村大字下除関係資料（近代、4 点、長谷川義雄氏寄贈）
- ・『文学風』『長岡文芸』（現代、6 点、西山一雄氏寄贈）
- ・日露戦争関係資料（近代、2 点、佐藤仁氏寄贈）
- ・西新町阿部家文書（近代・現代、561 点、阿部ソヨ氏寄贈）
- ・荷頃小学校文書（現代、14 点、荷頃小学校寄贈）
- ・長岡市役所庁舎関係資料（現代、4 点、新保欽司氏寄贈）

● インフォメーション①

文書資料室のホームページ (<http://lib.city.nagaoka.niigata.jp/monjo/index.htm>) に長岡市資料整理ボランティアのページができました。

インフォメーション②

閲覧室を少し模様替えしました。資料群名もわかりやすくして、ご利用しやすくなりました。

インフォメーション③

県内外からご寄贈いただきました自治体史や歴史研究図書・雑誌を閲覧できます。複写可能（1 枚 10 円）。

● 文書資料室入口前ギャラリーの展示予定

1 月～3 月 長岡市資料整理ボランティア活動の写真展

文書資料室の魅力（3）

利用者の声

閲覧や行事で文書資料室を利用されるみなさんからその魅力を語っていただきました。

生きがいのひとつ

先日、「越後国長岡領分孝行奇特者行状書」という長岡藩が領内で奇特者として表彰した人達を幕府に報告した文書を見せていただきました。私の住んでいる四郎丸地区では、6名が表彰されていました。

「古文書解説講座」で教えてもらった、私のおぼつかない読解力で何とか現代文に訳し、地区コミュニティセンターの「ふるさと四郎丸」紙で紹介させていただいております。

私にとって生きがいのひとつが「文書資料室」であります。（木戸貞男さん）

資料整理ボランティアで活動中

私と文書資料室の出会い「市史双書を読む会」に参加したこと。郷土学習が盛んな土地柄に気分は学生時代へ戻り学びました。

現在は、中越地震の後運び込まれた資料を整理するボランティアとして活動中。江戸時代から戦後までの長岡に関する資料を直に触れて作業します。一つの文献から時代背景を想像し、皆で知恵を出し合い読み解けた時は古文書が身近に感じられます。作業後、仲間と交流できるお茶タイムも楽しみの一つです。（桑野なみさん）

古文書にチャレンジ

「チャレンジ古文書」では、ゆっくり丁寧に、くずし字を教えてもらえるだけでなく、関連した本や辞典、ときには老舗のおいしい和菓子について紹介してもらえて、どんどん世界が広がっていきました。古文書を読んでいると、いくつもの発見と感動があります。これからも、古文書にチャレンジしていきたいと思えます。（K・Sさん）

博士論文を作成

私は、博士論文を作成するために文書資料室を利用しています。東京在住のため、年に数回しか利用できませんが、古文書の写真撮影が可能であるため、東京に戻ってからも研究活動をすることができます。文書資料室には古文書の他にも、長岡に関する研究文献が

結集しており、さらに職員の方々から資料や地域に関する情報を提供していただけるので、研究の進展に大いに役立っています。

（武部愛子さん）

新聞の持つ力を実感

私は、以前、大正時代のかなり大きな出来事を、数人の方にお尋ねしたことがありました。だが年月日の記憶はどうしても一致しない。それで文書資料室にお邪魔して、丹念に北越新報をめくるのが日課となりました。遂に、目的の記事と出会い長年の謎が解けた時は、天にも昇る心地でした。改めて新聞の持つ力を実感した次第です。文書資料室には調査に必要な関連した資料が多数あり、適切なアドバイスも頂き大変助かりました。

（志水博さん）

ご意見をお寄せいただきましたみなさん、ありがとうございました



（稲垣美知子）



（星純子）

小中学生のみなさん、ようこそ！

9月22日・10月11日に太田中学校、10月18日に旭岡中学校の生徒のみなさんが総合学習で来室しました。また11月1日には黒条小学校で福島江に関する出前授業を行いました。郷土の歴史調査や体験学習にご利用ください。



▲江戸時代の越後国絵図を見て
（太田中学校）

連載 長岡の碩学 (3)

水澤 謙一 (1910.5.23-1994.7.2)

民話(昔話)の研究家として全国的に知られる水澤謙一は、明治43年(1910)5月23日に古志郡栖吉村大字成願寺(現在の長岡市成願寺町)に父欽次郎、母きみの長男として生まれた。

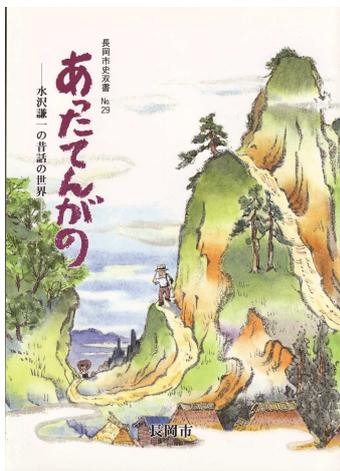
昔話を紹介した多数の著作物で知られる彼が最初に書いた論考は、昭和28年(1953)に『高志路』145に掲載された「古志郡民俗採訪雑感」であった。当時、富島小学校の校長だった水澤は、その中で「古い民俗が、今や急速に消滅しつつあることを痛感する。あたかも山かげの残雪の如く、老人の記憶の中にしか、その最も重要な部分が採集できないことである(中略)、この農民の『書かざる歴史』は全く書かれないままに、永遠に葬り去られてしまう。そして、その村の歴史が全く空白になる時代がやがて到来する。いや、現に到来している。採集の急ぐべきことを切実に感じる所以である」と嘆き、民俗調査の重要性を訴えた。

この後、水澤は生涯にわたって長岡地域はもちろん新潟県内の民俗調査を精力的に行うとともに、次々に民話を紹介し、伝播や分布など独自の研究を進めた。さらに、民話研究の第一人者として県内の市町村史や新潟県史の編さんにも積極的に参加し、その調査・編集に貢献した。水澤は「採集の急ぐべきこと」の初志を生涯に渡って貫徹した人であった。

彼が民俗学の研究を行うことになったきっかけは、柳田民俗学との出会いにあった。

「柳田国男の『桃太郎の誕生』という本を、東京神田古本街で、やっと見つけて、この本を読んで、深く感激して、昔話に専念しようと、心が決まった」と後に振り返っている。

彼はなぜ、柳田国男の民俗学に興味を持ったのか。そのきっかけは昭和24



▲長岡市史双書No.29『あたたてんがのー水沢謙一の昔話の世界ー』

年に「富曾亀郷土誌」の編集依頼を受けたことであった。水澤はこの調査・編集にあたって、柳田民俗学を参考とし、断片的な古文書では村の歴史が書けないと考え、それよりも村の伝承を追って、民俗誌をつくろうと民俗調査を進めていった。そして、昭和30年に古老の聞き書きを中心にまとめた『富曾亀民俗誌ー富曾亀郷土誌(上)ー』を刊行した。この本は、水澤の輝かしい活躍の第一歩となった。

彼は序に「柳田国男先生から有益なる御指導と激励をいただき、民俗学への開眼と学恩に対しまして、深く感謝いたします」と記し、柳田に本を贈った。水澤から贈られた本を読んだ柳田からは、昔話がとてもよいと激賞の礼文が届き、さらに昔話の採集に邁進していくことになった(小学校教師であったことも、子どもとのつながりの多い昔話をテーマにしていくことになった)。

平成7年度に完成した長岡市史編さん事業が始まるきっかけは、「失われていく文化財や資料を保護するため、市史編さん事業を起すにはいかがか」という水澤の発言(昭和57年8月の市政談話会で)であったという。

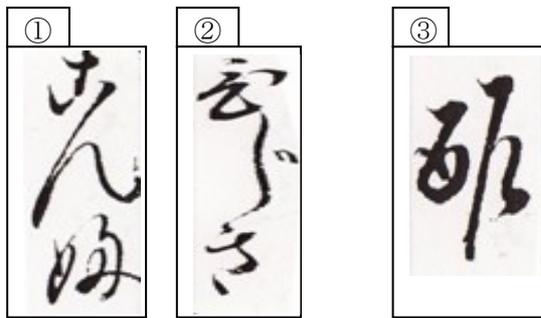
この長岡市史編さん事業において、水澤は長岡市史編集委員会民俗・文化財部会長を務め、再び市内各地の民俗調査に乗り出していた。調査は昭和59年～昭和63年にかけて31カ所実施され、平成4年に待望の『長岡市史』民俗編が刊行された。しかし、この本の編集にあたっては大変な苦難があった。当初、目次構成を従来各市町村史(『新潟県史』民俗編を参考)と同様にするとしていたものが、執筆の際に「空間・時間・心」という三つの視点から構成すること(『伊勢崎市史』民俗編を参考)に変わったのである。

まったくの新しい試みの中、民俗・文化財部会は大いに混乱し、編集委員間で激論が交わされた。この危機を乗り越えなんとか刊行できたのは、今考えると(編集担当としての感想)、ひとえに水澤部会長の研究者としての真摯な姿勢にあったのではないかと思う。

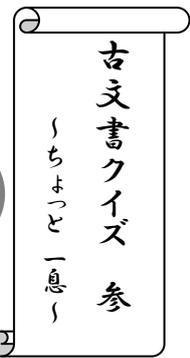
平成の今、昔話や伝説、鳥虫草木のことばや諺などは、さらに忘れさられていくばかりである。水澤が亡くなり、12年になるが、その意志を継ぐ「書かざる歴史」を探る新進気鋭の研究者の出現が待たれる。



(金垣孝二)



①～③の読みと住所・氏名・電話番号を記入のうえ、はがき・FAX・メールで文書資料室へお送り下さい。3問すべてに正解した方の中から抽選で5名の方に粗品を差し上げます。



平成19年2月1日(木)必着です。なお、当選は賞品の発送をもってかえさせていただきます。【前回の答え】

① にしん ② 数の子 ③ 塩から

●平成18年度の歴史資料所在確認調査概要

昨年度に引き続き、7・13水害や中越大震災による地域資料の流失や破損状況の把握と歴史資料の現状確認のため、文書資料室では長岡郷土史研究会の協力のもと、歴史資料所在確認調査を実施しています(下表参照)。

また、調査をきっかけに小国古文書の会や関原歴史研究会との合同作業・調査を実施するなど地域との連携も図っています。

資料所蔵者の方で、保存や整理の方法についてご質問・ご相談がありましたら、お気軽に文書資料室までご連絡ください。



▲報告会「古文書から探る小国のあゆみ」で (11月18日・小国公民館)

平成18年度の歴史資料所在確認調査の概要(平成18年11月20日現在)

期 日	調査地区	調査員数	調査件数	備 考
8/18(金)～ 20(日)	小 国	43人 (延べ)	29件	新潟県立文書館、教育委員会小国分室、小国古文書の会と共同で実施。11月18日(土)に報告会「古文書から探る小国のあゆみ」を開催しました(35人が参加)。
9/16(土)	大 積	8人	5件	転居していたり、地震で蔵が壊れていたりにして調査できなかった家が数件ありました。
10/7(土)	関 原	10人	8件	関原歴史研究会の協力を得て実施。長岡市史編さんの際に確認できなかった資料を発見できました(10月13日に関原歴史研究会と資料整理作業を実施)。
11/10(金)	山古志	3人	20件	道路の開通に伴い、資料が散逸する恐れがあることから、補充調査として訪問調査を実施。確認できなかった約40件については電話での確認調査を実施中です。

《編集後記》十日町市でのボランティア交流会、大満足でした！古文書を読み、おいしい蕎麦を味わい…しあわせ～。古文書大好きな人は十日町情報館で一日中楽しめると思います。おっと、編集後記を書くつもりが、十日町情報館の宣伝になってしまいました。来年も文書資料室をどうぞよろしくお願いたします。(小林)

平成18年12月1日発行

編集・発行：長岡市立中央図書館文書資料室
スタッフ/金垣孝二、星純子、稲垣美知子
田中洋史、小林良子

〒940-0065 新潟県長岡市坂之上町3-1-20
(長岡市立互尊文庫2階)

TEL 0258-36-7832、Fax 0258-37-3754

E-mail: monjo@nct9.ne.jp